令和6年度第3回千葉県立中央博物館リニューアル基本計画検討懇談会 議事録

- 1 日 時 令和7年2月20日（木）午後1時～午後3時
- 2 会 場 都道府県会館14階 千葉県東京事務所
- 3 出席者 委員 林座長、阿児委員、亀田委員、栗原委員、駒見委員、瀬能委員、染川委員
千葉県庁環境生活部 板倉スポーツ・文化局長、石島文化振興課長、
立和名副技監兼学芸振興室長、小野主幹、
水野副主査、宮川副主査
現代産業科学館 尾崎館長（オンライン参加）
閑宿城博物館 糸原館長（オンライン参加）
中央博物館 稲村館長、田中副館長、小田島副館長、島立事業部長

4 内 容

●議 題

- (1) 千葉県立中央博物館実施計画について
- (2) 千葉県立中央博物館施設整備計画について

5 議 事

【説 明 1】千葉県立中央博物館実施計画について（稲村館長）

【瀬能委員】

総合的目標にアウトカムの視点から信頼度を項目として追加すべき。千葉県立中央博物館みらい計画（以下「みらい計画」という。）に県民が誇れる博物館を目指すというのがあったと思うが、誇れる博物館というのは県民に信頼される博物館ということで、館の名前を知っているだけでは不十分。県民の信頼を得るためには、重要な資料をたくさん収集保管していることや、研究員がより社会から認められるような高度な専門性をもっているということに他ならない。信頼度を加えることで、資料収集や調査研究の位置付けもきちんとできるようになる。

重点事業の評価指標が展示教育普及に偏っている。収集保管、調査研究、展示教育普及の3本柱に沿った指標が必要ではないか。例えば、調査研究の成果であれば学術的著作物の数（地域・全国・国際レベルに分ける）、収集保管の成果であれば資料の利用数という視点も追加すべき。

基盤事業の評価指標について、収集保管では資料の利用実績というアウトカムの視点を追加してほしい。調査研究も論文数だけにまとめているが、重点事業と同様に地域レベル、国レベル、国際レベルにわけるべき。また、外部資金の獲得が指標の1つになっているが、資金獲得が目的ではなく、資金獲得して活動した結果をどれだけ論文にしたかが重要。展示教育普及の参加者数も1つにまとめられるが、来館者数も重要ではないか。レファレンスが入ったのはよいが、教育普及に関する著作数も必要。学芸員が1対1で対応するレファレンスサービスは、展示や教育プログラムと比べて教育効果が高い。著作物は1対1対応ではないが、手元に資料が残るし、図書館や学校などで繰り返し読まれるので、教育効果

が一番高いと考える。

コレクションポリシーと研究ポリシーが評価指標に入っているが、各業務の基準となるものなので、指標にいれるものではない。説明文の中にいつまでに策定というのが入っていれば十分。

【亀田委員】

ポリシーの見直しや策定が重要であることがなんらかの形でわかる方がいい。スケジュールに入れてはどうかという指摘はしたが、瀬能委員の指摘にもあったと通り、指標に入れるのは違うように思う。

【駒見委員】

ポリシーは評価指標に入るより、文章中に出てきた方がよい。また、展示教育普及だけポリシーがないので、加えた方がよい。

【林座長】

全体として県の議会对策を意識した書きぶりになっているように感じる。また、千葉県民だけではなく、日本全体の人達、外国の人たちにも理解してもらおうという視点も大事。例えば、重点事業1に千葉の海とあるが、もう少し広く考えて、海の中でもとりわけ千葉の海に注目するといった書き方がいいと思う。

【阿児委員】

県民がわかりやすいように、全体像を1枚でわかるものが必要。大きな博物館になればなるほど活動が多様化するので、細かく書くと丁寧だが、複雑化する。本体はこのままでいいが、わかりやすい概要が必要。

【栗原委員】

文章が少し硬いので、県民向けにやわらかくするとよいと思う。

【亀田委員】

重点事業と基盤事業を分けたために両事業の関係性が見にくくなった。概要版にも重点事業しかなく、基盤事業はやらなくていいというように受け取られてしまうと感じる。重点事業と基盤事業のつながりがわかる書き方が必要。

【瀬能委員】

基盤事業があつてこそその重点事業なのだから、基盤事業から重点事業という流れにしてもよいのではないか。

【栗原委員】

こういった計画だと重点事業を先に書くことが普通だとは思う。

【瀬能委員】

基盤事業の延長線上に重点事業があることがわかりにくいのが問題。評価の項目自体が重複しているものもあるので、評価項目は最後にまとめてもいいと思う。

【阿児委員】

1枚ものの資料は実施計画概要ではなく、中央博物館がめざしていく姿を示す方がよいと思う。その中で、みらい計画があって、実施計画をたてているというのがわかるとよい。

【稲村館長】

みらい計画と実施計画の関係や基盤事業と重点事業の関係がわかりづらいのが問題だと思うので、流れや表記を修正する。少なくとも概要版にも基盤事業を入れるようにする。

【林座長】

今ここで修正の方向性を決めるのは難しいと思うので、事務局でよく考えて対応してほしい。

【栗原委員】

博物館法改正や ICOM の museum の定義の見直しというに関する表現が全くないのが気になる。インクルージョンや多様性などといった視点や法整備に関する視点がやや薄いように感じる。

【立和名室長】

昨年策定したみらい計画は博物館法改正などの法的な部分を踏まえて作成した。実施計画はみらい計画の下位計画になるので、当然そのあたりも踏まえた上での計画にはなるのだが、明確な表現が少ないので、言葉として加えられる部分は加えていきたい。

【林座長】

総合的目標の認知度と年間利用者数とはそれなりにリンクするはずだが、本館の入館者数の目標値は現状の 1.5 倍に対し、認知度は 23% から 30% の 7% 増と少ない。これはどうリンクしているのか。目標値としては少ないように感じる。

認知度はどのように調べたのか。現状値がこんなに低いことはないと思う。文化芸術に関するアンケートを基にしているようだが、中央博物館は文化芸術だけではなく、科学面でも活躍しているので、文化芸術だけを対象にしたアンケートを使うのは妥当ではない。認知度の項目は削除した方がよい。

【稲村館長】

中央博物館の立地している青葉の森公園内にある芸術文化ホールの認知度が約 30% なので、まずはそれに追いつきたいと考え、目標値を 30% とした。

【立和名室長】

文化芸術に関するアンケートは、千葉県在住の満 18 歳以上の個人 3000 人を対象に実施したもの。

【瀬能委員】

色々な広報をどこにどのようどのくらい行ったかなどに変えた方がよいのでは。統計的に意味があるアンケート調査は難しい。

【阿児委員】

千葉県立中央博物館を字面で見せられてどこかわからなくても、ロゴや建物の写真を見れば行ったことあるとなる人はいると思う。文字情報と人の持つイメージは違うので、本当はもっと認知度が高いと思う。ロゴや建物の写真等を入れるようにしてはどうか。

【栗原委員】

アンケートでは18歳以下は含まれてないが、利用者数には含まれているから、認知度と利用者数が乖離しているのだと思う。

【林座長】

認知度を把握するために使っているデータがこの計画には適切でないように思うので、項目ごと削除した方がよい。

【瀬能委員】

入館者数の目標値は何年度のものか。最初は人が来るが、どんどん下がっていくのが普通。それを加味しているか。

【稲村館長】

展示の内容次第で浮き沈みはあると思っているが、目標は4年後に目指す数値。

【瀬能委員】

重点事業1に東京湾と出てくるが、どこまでを東京湾と定義しているのか。

【小田島副館長】

館山の洲崎と三浦半島の劔崎を結んだ線の内側を東京湾としている。

【瀬能委員】

海洋学や生物学の視点からは、東京湾内湾の外側は相模湾とするのが一般的である。国土交通省や海上保安庁、国土地理院といった関連組織、あるいは研究分野や人によって定義が違うので、わかりやすいように定義については気を付けてほしい。

【瀬能委員】

資料収集について、収集点数と登録点数を分けるのではなく、登録点数とするべき。

【立和名室長】

収集点数を指標の1つにしたが、ただ集めるだけでよいのかというのは内部でも意見が出ている。

【瀬能委員】

だからこそコレクションポリシーを最初に策定することが大事。ただ単に集めているのではなく、コレクションポリシーに基づき、取捨選択と評価をしつつ集めているからこそ登録点数に意味があるという考え方。

【林座長】

そのとおり。現在はポリシーがないが、これだけ集めてきたということか。

【稲村館長】

現在も収集のポリシーはある。地域館の集約等を背景として、見直しを行うということ。

【瀬能委員】

さらに、重要資料の数や網羅率、多様度といった数値を入れておくと、内容がわかる、使える数字になっていくと思う。

【亀田委員】

指標にアウトプットとアウトカムが混在している。まずはアウトプットでこれだけのことをやるということを目指して設定した上で、次の段階でそれに対応するアウトカムを目標に設定するといった順番を意識して、アウトプットを指標としているのであればいいのだが、同列に並んでいるように見えるのでわかりにくい。アウトプットとアウトカムをきちんと使い分けるべき。

【林座長】

指標について、概要版では現状値と目標、本文では現状と目標値という言葉が使われている。どちらも値は不要で、現状と目標でよい。できるだけ短くわかりやすい言葉を使うべき。

【稲村館長】

御指摘のとおり修正する。

【説明 2】千葉県立中央博物館施設整備計画について（立和名室長）

【林座長】

展示案はよくできていると思う。建設候補地については、現地を見ながらやった方がいい。

【瀬能委員】

展示はよくわかったのだが、それを支える収集保管や調査研究がどうなるのかがこの資料からは読み取れない。動線や部屋の配置といった情報も必要。収集保管や調査研究についても展示と同じようにわかりやすい資料があった方がよい。

建設候補地については、必要面積がとれるのが大前提なのでA案は厳しいと思う。C案が理想的だと思うが、動線や部屋の配置も含めて考えた上でB案かC案か決めるべき。

【亀田委員】

C案が有力候補かと思う。C案は新設かつアクセスもよいということなので、新棟にメインの展示が配置され、人が多く集まると想像できる。その場合、今の本館を利用してもらうためにどう工夫していくかが大事。

また、新棟にばかり目がいって本館の改修がおいていかれないか心配。本館も収蔵庫や研究スペースの整備が必要になると思うし、利用者サービスもきちんと入っていないといけないと思うので、新棟と本館ともにしっかり作らないということを見せていけるといい。そのためにも部屋をどう配分するのかという情報を盛り込んでいけるといい。

【立和名室長】

今回の資料が施設整備計画の完成版ではない。現在、動線含めて検討を進めているところなので、動線や部屋の配置については今後この先の作業で資料に落とし込んでいく予定。

【板倉局長】

県としてはC案がよいのではと考えているので、C案を前提とした新館と本館の諸室構成を次回お示しし、検討を進めさせていただきたい。

【阿児委員】

今後、青葉の森公園が文化ゾーンとして活性化していくと思うが、公園全体の整備のスケジュール感はどうなるのか。まず県立図書館・文書館がきて、その後に中央博物館を整備するのだと思うが、公園自体の整備方針もあるのか。

【立和名室長】

駐車場からの動線や搬入路の確保を含めた公園整備も必要になってくると思っている。

【阿児委員】

参考でよいのだが、青葉の森公園が千葉県の中でどのようなエリアとして位置づいていくのかが知りたい。公園での博物館の役割を理解して、展示や園内施設との連携等を検討するとよい。

【立和名室長】

カルチャーゾーンのほかにレクリエーションゾーンやスポーツゾーンもあるような公園。

【林座長】

できる限りの範囲でよいので、今後も情報提供してほしい。

【栗原委員】

ショップやレストランは入館料をとらずに誰でも入れる設計にするとよい。そこから博物館に入ってもらえると思う。レストランは火の元になりやすいので、どこに配置するのかよく検討してほしい。

公園内にスポーツゾーンがあるとのことだが、中央博物館にスポーツに関する資料を展示していたイメージがない。せっかくそのようなゾーンがあるのなら、新しい展示にはスポーツ展示コーナーがあるとよいと思う。

【駒見委員】

C案は駐車場から離れてしまうのではないか。ユニバーサルデザインをうたっているということは色々な人に来て欲しいと思っているのだと想像するが、建物のすぐそばに駐車場が必要だと思う。

【石島課長】

C案は西口駐車場が非常に近くなる。自転車は園内に入れる。

【立和名室長】

駐車場等の整備は必要と考えている。

【阿児委員】

生態園への影響は工事期間中、着工後、開館後に分けて示してもらえるとよいと思う。

【立和名室長】

C案の場合、いずれの期間も生態園への影響はほぼないと考えて問題ない。

【染川委員】

C案になった場合、新館と本館どちらにも学芸員や管理室が配置されるべき。新館を指定管理に出して、本館に学芸員が全員こもるといったことが起こらないようにしてほしい。C案は自由度も高く、夢があってよいと思う。

【立和名室長】

諸室構成については、御指摘の内容を踏まえ、今一度検討していきたい。